

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.16
平成28年1月8日

暖冬でも注意が必要です！

2016年がスタートし、1月7日(木)から学校も3学期が始まりました。桜小学校にも子ども達の元気に活動する姿や笑い声が戻ってきました。今年は例年のない暖冬で、先週はまるで春のような陽気が感じられました。暖冬の原因は、エルニーニョ現象が関係しているようです。しかし、エルニーニョ現象で暖冬になる場合は大雪になることもあるようですので、気を付けていきたいと思えます。

児童の中には、風邪等による発熱で欠席している子もいますので、帰宅後の手洗い・うがいの励行、体温調節に留意していただけたらと思えます。

学校では、新年、新学期を迎え、子ども達に学習や運動などにおいて具体的な目標をもたせて、平成27年度を締めくくっていきたくて考えています。子ども達の意欲が高まるように、ご家庭でも声かけをお願いします。



3学期始業式の話よりー1月7日(木)

あけまして、おめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

みなさん、今年は何年ですか？そうです、今年申(さる)年です。サル目ヒト科の仲間である人とチンパンジーのゲノム(全遺伝情報：親から子に伝わる情報)の違いは、わずか1・2%ほどだそうです。人とチンパンジーは、ほとんど同じ生命の設計図を持っています。では、何が人とチンパンジーでは違うのでしょうか？

○ チンパンジーの研究を通じ、人の心の進化を探る人の本に、こんな話が出てきます。あるチンパンジーが病気で首から下が麻痺(まひ)し、骨がむき出しになるほどの床ずれ(寝たきりや麻痺などで体位を変えられない人にできます)を起こしました。人間ならば、「もうだめだ」と、絶望(期待や希望がもてないこと)してしまうような苦しい状況なのに、このチンパンジーにはめげた様子がありません。その様子を見て、その人は、人とチンパンジーの違いを次のように思ったそうです

○ チンパンジーはただただ今を生きるから、明日のことを思いわずらって、絶望することがありません。それに対して人間は将来を思い、かんたんにあきらめ絶望します。しかし、絶望する能力と同じ力、未来を想像する力があるからこそ、希望をもてます。これが、人間とチンパンジーの大きな違いです。「人間とは何か、それは想像するちから、希望をもてるのが人間なのだ」ということです。

ですからわたしたち人間は、いい方向に、プラス方向に想像し、希望をもつことを大切にしたいと思います。

今年の箱根駅伝では、青山学院大学が完全優勝を果たし、神守中、中京高校出身の神野大地選手が2度の骨折を克服して、復活を果たしました。6区を走った佐藤淳選手は、この弥富市、栄南小、弥富中、明和高校出身だそうです。

みなさんも、郷土出身のアスリートを目標に運動や勉強の面で、プラス思考に想像し、希望をもって、日々努力してください。

